【授業科目】助産管理　　Midwifery Management

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大林 陽子	4年次 前　期	選　択	1	15	講　義	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／助産業務の特性を理解し、その業務に必要な管理の原理、産科病棟や助産所における妊産褥婦・児とその家族に必要な助産業務と産科病棟や助産所の管理に必要な知識とその体制を学ぶ。小グループでともに学び合う共同学習を中心に授業を進める。事前に課題を提示し、授業日までに教科書または文献等を参考に課題についてまとめ、それらに基づき授業日に意見交換を行う。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出した課題のコメントは授業で全体の総評を行う。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める
実務経験に関する授業内容	産科領域の臨床経験を持つ教員が、助産師として必要な管理の知識について実務経験や研究成果を交えながら指導する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①助産業務の特性を理解し、管理の重要性について述べることができる。 ②助産師の業務範囲と法的責任について述べることができる。 ③母子に対する社会保障制度を活用する支援が説明できる。 ④助産師の危機管理・災害時の対応について述べることができる。 ⑤助産所、病産院における助産業務管理の実際を説明できる。
時間外学習に必要な内容・時間	事前学習：教科書の関連領域・配布資料は事前に読んでおく。事前課題について調べ学習を行いまとめる（120 分） 事後学習 第１回：関連テーマについて調べ（60 分）、自己学習ノートに記載する（60 分） 第２回：関係法規について調べ、ノートに整理する（120 分） 第３回：関連テーマについて調べ、自己学習ノートに整理する（120分） 第４～５回：関連テーマについて調べ、レポートを作成する（120分） 第６回：助産師に関連する災害対策および対応について文献を読み学習したことをまとめる（120分） 第７回：助産所における助産業務管理についてまとめる（120分） 第８回：病院における助産業務管理の実際についてまとめる（120分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　助産管理とは　助産業務管理の基本と方法を学ぶ（課題①提示） 第２回　助産師及び助産業務に関連する法規と責任 関係法規、助産師の法的義務・届出を学ぶ（小演習課題①） 第３回　周産期医療体制とチーム医療・地域連携 第４回　医療安全と危機管理①（レポート課題提示） 第５回　災害対策と助産師活動（課題①発表） 第６回　助産所における助産業務管理 第７回　病産院における助産業務管理①（小演習課題②）（課題②提示） 第８回　病産院における助産業務管理②（課題②発表） すべて日比
評価方法 評価基準	課題・授業への取り組み：50%（課題発表 30%、グループワーク時の参加度 20%）、小演習課題：30%（①②各 15%）、レポート：20%で総合的に評価する
教科書	１．助産学講座10　助産管理　第6版　医学書院 ２．新版　助産師業務要覧第4版　Ⅰ基礎編　日本看護協会出版会
参考書等	助産師基礎教育テキスト 2025 年版　第 3 巻 助産サービス管理　日本看護協会出版会
学生への助言等	助産師として助産管理の在り方を知っておくことは助産師として活動するうえで重要です。臨地での助産管理の実際とのつながりを意識して学んでください。